



関西外国語大学 イベロアメリカ研究センター主催  
2026年度連続公開講座



# 歌は沈黙しない —ラテンアメリカにおける社会変動と音楽—

5月29日(金) 千葉 泉 氏 (大阪大学名誉教授)

社会の課題にコミットするチリの音楽—「アンヘリートのお別れ」と「新しい歌」



先住民、ヨーロッパ系、黒人系など、さまざまな民族が混交して社会が形成されたラテンアメリカでは、ダイナミックで複合的な特徴を備え、社会の状況に深く根差した音楽が育まれてきた。

この講演では、先住民へのキリスト教の布教を起源とし、幼児葬の参列者が抱える苦悩を優しく解き放つ「アンヘリートのお別れ」、同時代の社会問題を告発し、よりよい社会の構築を訴える社会的歌謡として1960年代～80年代に発展した「新しい歌」など、社会の課題に積極的に働きかけるチリのさまざまな歌謡を、軍事政権期における現地での経験を交えながら紹介し、会場の皆さんにも一緒に歌っていただきます。



6月19日(金) 安部 寛尚 氏 (立命館大学教授)

キューバ史における社会変化と民衆音楽



1902年の独立以降、キューバの歴史における大きな社会変化は、それに伴う民衆音楽の変化も生み出した。本講演ではその大きな流れと特徴を明らかにすることを主な目的とする。そこでまず、1920年代に始まる黒人芸術流行期に「発見」されたアフロキューバ音楽、次いで1959年の革命後、ラテンアメリカの「新しい歌」と連動したヌエバ・トロバ、そしてソ連崩壊から現在までの危機的状況におけるラップの展開を主に取り上げる。それぞれの歴史的出来事の背景を説明し、音楽については映像やギター演奏を交えて聴衆の理解を深める。



時間：17時00分～18時30分(16時30分開場)

開催：対面&オンライン(Google Meet)

対面会場：関西外国語大学 中宮キャンパス マルチメディアホール

参加費：無料

オンライン視聴申し込み  
<対面参加は申し込み不要>

